

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
（分担研究報告書）

全国がん登録の利活用に向けた学会研究体制の整備とその試行、臨床データベースに基づく  
臨床研究の推進、及び国民への研究情報提供の在り方に関する研究

研究分担者 岡本高宏・東京女子医科大学乳腺・内分泌外科・教授

研究要旨（甲状腺がん臨床データベースの現状と将来）

甲状腺がん登録事業はNCDシステムを利用して継続している。甲状腺腫瘍診療ガイドラインも改訂から2年が経過し、わが国の甲状腺がん診療の質向上が期待される。NCDシステムを活用したデータ分析によってそれを実現できているのかを検証するとともに、予後情報を含めたシステムを構築し、わが国における甲状腺がんの現状を広く国民に発信できるよう体制を整えてゆく必要がある。

**A. 研究目的**

- (1) 甲状腺がん登録作業を推進する。
- (2) 甲状腺がん登録の現状を把握する。
- (3) 予後情報を含めたエビデンスの創出を推進する。

**B. 研究方法**

- a. 臓器がん登録の予後データに全国がん登録データの予後データを反映させる意義とその体制構築に向けて日本内分泌外科学会のNCD委員会で検討する。
- b. 症例登録内容の正誤確認に関する検証の実施の必要性に関して日本内分泌外科学会のNCD委員会で検討する。
- c. 第三者機関への登録・分析依頼の実施状況の検討。
- d. 登録事業の非実施学会（研究会）あるいは長期通年非事業化の学会におけるその背景と、実施に向けた解決策の検討。
- e. 登録事業における学会内での固有の課題・問題について、日本内分泌外科学会の理事会で議論する。
- f. 登録先機関に関する状況把握を日本内分泌外科学会のNCD委員会で行う。
- g. 特定研究課題を設定した短期間登録研究について日本内分泌外科学会のNCD委員会で検討し、NCDの担当者および事務局と協議する。
- h. 通年登録実施における学会内規定について日本内分泌外科学会のNCD委員会で検討する。
- i. 登録データを活用した研究報告の研究内容に関する一般国民向けへの特設説明サイト設置について日本内分泌外科学会のNCD委員会で検討する。

**C. 研究結果**

日本内分泌外科学会では NCD (National Clinical Database)への手術症例の登録を通じて甲状腺がん登録を行っている。

- a. 現行の甲状腺がん登録に全国がん登録データの予後データを反映させることは大変意義深いと考える。その体制構築については今後の課題とした。
- b. 登録内容に関する正誤確認は重要である。令和3年度に向け継続課題とした。
- c. NCD への手術症例登録を通じて甲状腺がん登録を行っている。
- d. 甲状腺がん登録を実施しており、該当せず。
- e. 実臨床では耳鼻科、頭頸部外科においても甲状腺がんの診療が行われているが、それらの症例はNCDには登録されない。NCDは非社員学会であっても登録は可能とする見解であるが、耳鼻科や頭頸部外科が学会としてNCDへの登録を推進するかどうかは今後の鍵である。また、非手術症例（甲状腺微小癌や未分化癌など）は登録されておらず、わが国の甲状腺がんの全体像を把握するには今後の整備が必要であるとした。
- f. 甲状腺がん登録を兼ねるNCDのケースリポートフォームに関してはユーザーからの問い合わせや提案、そして甲状腺癌取り扱い規約の改定等に応じて毎年改訂している。手術症例としてNCDに登録することは広く周知しているが、登録内容の詳細等は公表していない。
- g. NCDと共同して甲状腺がんに関するアニュアルレポート作成を行っているが、COVID-19の感染拡大により、作業は大幅に遅れている。定期的にNCD事務局や解析担当者とミーティングを行っているが進捗は捗々しくはない。特定の課題を設

定した短期間登録研究についても協議しているが、実務的な進捗はコロナ禍で厳しい状況である。

- h. 登録実施における学会内規定の検討はなく、今後の課題とした。
- i. gに記載のごとく、登録データを活用した研究報告は実現できていない。一般国民向けへの特設説明サイト設置については、上記gの進捗状況に合わせて検討を進めることとする。

#### D. 考察

診療ガイドラインの普及とその成果を確認するがん登録の推進が、わが国の甲状腺がん診療向上には急務である。後者についてはNCDを通じて登録を進めているが、耳鼻科や頭頸部外科領域の症例登録がなされていない現状がある。また、非手術症例も登録対象とはなっていない。さらにはCOVID-19の感染拡大により登録データの利活用にも遅れが生じている。

#### E. 結論

診療ガイドライン改訂後2年が経過し、要点となる指針は普及しつつある。登録データを用いた検証作業を継続し、国民に向けて発信できるよう体制を整えてゆく必要がある。

#### F. 健康危険情報

特になし

#### G. 研究発表

- 1. 論文発表
- 1. Okamoto T, Eguro Y, Yoshida Y, Horiuchi K. Radioactive iodine treatment of papillary thyroid carcinoma in Japan. *Gland Surgery* 2020;9:1698-1707.
- 2. Horiuchi K, Okamoto T. Prognosis and prognostic factors in patients with intermediate-risk papillary thyroid carcinoma defined by the Japanese Clinical Practice Guidelines for Thyroid Tumours. *Otorhinolaryngol Head and Neck Surg* 2020;5:1-6.

#### 総説・著書

- 1. 岡本高宏. 甲状腺腫瘍診療ガイドラインのポイント. *日本臨牀* 2020:78(増刊号4):269-274.
- 2. 岡本高宏. 甲状腺腫瘍. 今日の治療指針2021(福井次矢、高木 誠、小室一成編). 医学書院 2021, pp 810-811.
- 3. 岡本高宏. 甲状腺良性腫瘍. 新臨床内科学(矢崎義雄編). 医学書院 2020, pp 894-895.

- 4. 岡本高宏. 甲状腺悪性腫瘍. 新臨床内科学(矢崎義雄編). 医学書院 2020, pp 895-897.

#### 2. 学会発表

- 1. 岡本高宏. シンポジウム「疾患データベースにおける病理学的データとその利活用」: National Clinical Database. 第24回日本臨床内分泌病理学会学術総会. 2020.9.25-26: 東京.
- 2. 岡本高宏. 予後因子の話をどうするか?: 甲状腺がんを例に. 第24回日本臨床内分泌病理学会学術総会. 2020.9.25-26: 東京.

#### H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

- 1. 特許取得  
なし
- 2. 実用新案登録  
なし
- 3. その他